

2023年3月30日

高齢社会NGO連携協議会の皆さま

高連協共同代表 樋口 恵子
高連協理事 杉 啓以子

政策提言およびそのための調査事業 「高齢女性の働き方と社会参加」報告

NPO法人高齢社会をよくする女性の会は、創設以来40年を超える活動歴の中で、しばしば、小規模ながら重要なテーマを、継続的に追いつけてきました。幸い、会員役員には調査の専門家もおり、恵まれた中でその時期に適した問題提起を繰り返すことができたのだと存じます。

中でも、時期を置いて繰り返し取り上げたテーマが「女性の就労」にかかわる調査研究です。

本会は折あるごとに、「女性が働くということ」をめぐる実態と意識調査を行ってきましたが、「介護保険制度」がどんな専門家を育て「働く側」に身を投じているか——など、今回の研究事業調査「女一生の働き方」で得た回答からは、思いがけぬほど明るい気持ちが伝わってきました。

「外に出る」「他者とつき合う」「だれかを支える」「認められる」と言うことが、働く側の心に「はずみ」と「生きがい」を付けています。

日本がこれから北欧並みに社会福祉を発達させるためには、他の先進国並みに女性の生き方の中に「働くこと」が重要に位置付けられ、年金などの社会保障制度が男女平等になる必要があります。職場における「男女同権」が導入されたのは1989、女子差別撤廃条約が批准された年。あれからまだ35年、もう40年——あきらめず、あきず、人生100年社会形成に向けてすることは山ほどあります！

今回の私どもの調査が、上部団体高連協様のお呼びかけにより、本会のメンバーによる調査・研究が進捗したことを感謝し、ここにご報告申し上げます。